

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400194		
法人名	社会福祉法人 三慶会		
事業所名	グループホーム喜楽荘 (なごみ)		
所在地	玉野市渋川1丁目13-5		
自己評価作成日	令和 3年 12月 24日	評価結果市町村受理日	

敷地内に「特別養護老人ホームひび喜楽園」があり、連携を密に取っている為、グループホームでの生活が難しくなった時に、ご希望があれば移って頂くことが可能です。喜楽荘とひび喜楽園は同じ医師が往診に来られるので、施設を変わっても主治医が変わることがありません。  
また、喜楽荘は、職員の離職率が低く、オープン当初の職員がたくさんいます。職員が落ち着いていることが、入居者の皆様の落ち着いた生活にもつながっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390400194-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390400194-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 1 月 21 日

「楽しい事をたくさんしてあげたい」そんな気持ちと職員の頑張りが施設の背中を押して、入居者の笑顔を導いている。あるスタッフは、「就業時間の経つのが早いんですよ」と語るくらい楽しい職場となっていて、スタッフの勤務にも及んでいる。リビングの壁には、「地域の子供たちから寄贈された応援タペストリーが掲示され、職員にエールを送りながら、「出口を探して行きましょう」と利用者の悩みをさらに親しみや絆を深めて家族と同様に気持ちを汲み取り、利用者の自立に向け、利用者の日々の生活やイベントをビデオレターとして送り、現状報告のシーンとして伝えている。人への配慮が人を形成している職場であった！

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	三慶会の理念を基に業務を行っています。	法人の理念と運営方針が、事務所に掲示されていて、毎月の会議で照らし合わせながら議題が進められている。新入職者には、キャリアに応じて数日から最長2ヶ月程度の研修期間が設けられ、各ユニット長がレクチャーをしているので、大きくぶれない方針が息づいている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は行えていませんが、地域で開催される夏祭りや敬老会などの行事に参加し、交流しています。今年度は新型コロナウイルスの影響で、地域の催し物が無かったり、接触機会を制限しており交流できていません。	利用者は日頃から玄関先に出向き、毎日のように出入りする業者の方と挨拶を交わっていて、敷地の沿道では、地域の方の散歩コースとなっているので、気軽に挨拶を交わす事が続けられている。事業所の新聞を毎月、愛育委員と町内会長へ郵送していて、再びリアルな関係性を育てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で高齢者・認知症について様々な専門職にお話をして頂き、理解を深めています。今年度は新型コロナウイルスの影響で行えていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度行い、施設の利用状況や行事予定、DVDを使用した活動報告をしています。また、研修報告など行い、ご家族のご意見や要望を聞いています。今年度の運営推進会議は昨年同様文書配布で対応しています。	2ヶ月に一度、書面と普段の様子や事業所の様子を収めた新聞資料をメンバーに郵送して、会の開催を続けている。メンバーは、本人・家族・愛育委員・町内会・包括支援センターで、議題によっては、地域の薬局や訪問歯科に参加して頂くこともある。	新たな関係から運営推進会議に参加していただいてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターへ毎月新聞を郵送しGHでの取り組みを伝えています。運営推進会議にも参加して頂くこともあります。また、定時に長寿介護課に入居や待機状況の報告を行っています。	窓口は、副ホーム長とユニットリーダーで、関係を築いている。主に電話で連絡を取り合うが、内容によっては、直接役所まで出向いている。何でも話せる関係となり、地域に貢献しやすい情報提供も豊富に頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていません。特養と合同の動画研修を行なっています。建物が立っている場所柄(玄関を出たらすぐ坂でその下は道路)、玄関の施錠を行っています。	身体拘束はしていない。年1回の身体拘束をテーマにした研修に付随して、毎月関連項目の動画を視聴している。最近では、「動かないでください」等の声掛けは、言葉での拘束と学び、言葉かけにも注意をしている。副ホーム長も職員と一緒に利用者と語らいを楽しみ、動画を鑑賞して不安にならないオペレーティングをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特養と合同の動画研修を行い、会議で虐待がないか確認をしています。又、不適切な発言など耳にした場合は注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特養と合同の動画研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時より契約前の方が質問が多く、説明を行い納得した状態で入居の手続きをさせて貰っています。その都度出てきた質問にも随時答えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からは、面会時や運営推進会議で、利用者様からは日々の生活の中から意見や要望をお聞きし、運営に反映しています。今年度は、電話での近況報告時やケアプラン作成時にご家族へ意見や要望をお聞きして反映できるように対応しました。	毎月日々の暮らしぶりを新聞にまとめたものを家族に送っている。家族の喜びの声が自然と事業所への情報提供としてフィードバックされ、郷土の雑煮作りやうどんを粉から作っている事も家族に写真で伝わっている。デリケートな利用者の意見に根気よく耳を傾け、意向の把握に役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中で、意見が出たり、日々のケアの中で提案が出たりした物を精査して、行事に関する意見は、計画を立て行えるようにし、その他の意見では必要に応じて上司へ報告して対応したりと、その都度対応しています。	職員も管理者側も公平に働き方改革が出来ている。ケアマネとユニットリーダーが勤務表作成して、自然とスタッフの個別相談を受けるようになり、ゲートキーパー役を果たしている。職員の男女比率が良いので職員の個性もより発揮しやすく、ムードメーカー役もその力量をより発揮してくれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与前に書面で評価をしていますが、マイナスな評価ではなく、プラスの評価をしています。 パートさんとは、勤務時間や日数等を確認しながら勤務を組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月特養と合同で動画研修を行っています。また、資格試験などある場合は、勤務に反映しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部より内部(特養・GH合同)研修の方が多いので、内部での交流は行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントに行った職員の顔は記憶に残っている事が多いので、一番に話を聴いたり、他入居者や職員の間に入り関係が築けるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・アセスメント・契約など同じ職員が対応し、家族が不安や困っている事、疑問など聞きやすいようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が困っている事、こうして欲しいという内容を基に実際の本人さんを見て必要な援助を考えいろいろ試しています。しかし、関わりすぎるのが嫌な方もいるので、その方に合わせた距離で対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が作業(掃除や調理)をしていると自然に手伝って下さいます。お互いが助け合い、側にいることが出来ていると思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけでも家族だけでも限界があるので、面会や電話、手紙などで近況報告や相談を行い、協力しながら援助しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事などに参加、交流して頂き懐かしんでもらえるようにしていましたが、コロナ禍のため出来ていません。	もともと構築されている身近な馴染みをさらに深めようと、家族と電話や年賀状のやり取りをオンライン体制で幅を広げている。特にユニット間の交流で、ふらりと立ち寄れば、お茶の時間でなくても「まあちょっとお茶でもして行かれませんか」と隣近所のような馴染みのお付き合いが出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士のテーブルの配置を行い関係づくりの支援を行っています。孤立しないよう共有し、関われるようにしています。また、ユニットの行き来を自由にしてもらいユニットを超え交流しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	敷地内に特養があり、その特養に移られた方には、時々会いに行き、近況を聴いたり、話をしています。 入院し退所した方には、電話等でご家族とお話しし、相談などお聞きする事がありました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活で難しい事もありますが、本人の希望に出来るだけ添えるように努めています。困難な場合は、ご家族と相談しながら行っています。	意思疎通が出来る方には、横並びに座ってお話を聞いたり、時には一緒に散歩をしながら穏やかな時間を提供している。どなたにも絶えず言葉をかけていると、ときに「はい」という返事やモゴモゴと反応してくれるのがありがたく、もっとしてあげようという気持ちになって実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント時に生活歴を聴かせて頂いています。また、お話をしていくうちにより詳しく分かる時があります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後は、アセスメントで知り得た情報があるかの確認やご本人の生活リズムを知る為にあえて手をあまり出さず様子を観察し、GHで必要なケアを考える時間を設けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直しの前に本人・家族に話しを聞いて今の気持ちなどプランに入れるようにしています。 また、1か月ごとに各ユニット職員でモニタリングを行っています。	入居時に作ったプランは毎月行われるモニタリングで見直している。常勤の看護師が、配置されていて、加えて隣接の特養に栄養士が配置されているので、かかりつけ医と同行の看護師本人家族を含めて、細やかに情報収集しながら、本人家族の意向をプランに反映している。	オンライン研修などに参加して、ケアプランの書き方をブラッシュアップすることで、今以上に本人家族の思いを形に表すように活かされてはいかががでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察記録用紙にケアプランの内容を印字して、常に意識してケアしてもらえるようにしています。また、ノートを作成し、ケアの統一が図れるようにしたり、ユニット会議で問題点を話し合えるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の代わりに病院受診を行ったり、必要な日用品や嗜好品等、個々のニーズに合わせて行えることは柔軟に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インターネットや市の広報誌、ご家族の話などで情報を得て催し物など確認し、その地域に住んでいた方を中心に声掛け参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に往診に来てもらい、GHで診察してもらっています。入居時医療機関との連携をより密にする為、主治医の変更をしてもらっていますが、変更を望まない方は今までの医療機関への受診で対応しています。	入居時にかかりつけ医を選んで頂くが、殆どの方がホームの提携医に転院される。原則として、職員が市内の通院を介助し、家族と臨機応変に対応している。提携医からの往診は、ユニットごとに2週間に一度、訪問歯科は適宜に来所され、どの医療従事者とも気やすく相談できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が1名常勤で勤務をしています。GHの看護師が休みの日は、隣接の特別養護老人ホームひび喜楽園の看護師が対応し連携を取りながら入居者の体調管理に努めています。往診時も看護師が立ち会い、入居者の状態について医師へ報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	様子を細目に見に行き、医師・ソーシャルワーカーから話を聞いたり、家族と連携を取り合う事で状況把握や退院に向けて話をしています。今年度は様子を見に行くことができないので、電話での様子確認となりました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	コロナでの面会が行いにくい状況なので、外から窓越しでも見やすいお部屋へ移動していただき、少しでも会えるように対応しています。	研修のリーダー役はホームの看護師で、面談中コーヒーを持って来られた現場の職員に尋ねたところ、マニュアルを大事にし、「後悔がないようにその方に居心地よく過ごしてほしい」と介護している考えを聞くことができた。そんなやり取りから、副ホーム長は 職員のとっさの答えに感動して目を潤ませてた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、マニュアルを見て対応しています。また、特養の看護師に応援を依頼したり、24時間誰かに連絡できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回特養と合同で避難訓練を行っています。	年に2回、火災と水害と土砂の災害訓練を特養と合同で利用者を交えて昼夜想定で行っている。常勤の看護師が、グループホームと特養に配属されていて、緊急時には夜間にもすぐに駆けつけている。緊急連絡網は LINE で行い、備蓄は水と食料と衛生材料が3日分程度用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話す内容によって、声の強弱や話す場所に配慮しています。また、これから行うことの説明を行い、同意を得てから対応しています。	入室する際はノックをしてを呼びかけし、肌が露になる場面では、ドアは閉めたり、間仕切りをして対応している。また何か失敗をされたら、平常心で「こちらへ来てもらっても良いですか」「このようにしても良いかしら」と穏やかな心持ちで関わるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の気持ちを言えない方や言いにくい方は、個別に話しをする時に気持ちを聴いたり、ご家族に好きだったことなど聞いて、希望に近づけるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「出かけたかった」等訴えあれば出来るだけ対応していましたが、昨年度から外出を控えており、「出かけたかった」と言われた時は敷地内での外気浴を行いました。行事等あれば声掛けて出来るだけ参加して頂けるようにしていますが、ご本人が行きたくない時には、無理せず休んで頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には選べる方は、ご本人に衣類を選んでもらっています。また、お化粧の習慣がある方はして頂いています。月に1度美容院の方が来られるので、その前に希望を聞いてカット・パーマ・カラー等行っています。昨年度より県内の感染状況を見ながら、美容師さんの訪問を決め、不定期で訪問してもらいました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを聞いて普段のメニューに取り入れたり、準備や片付けも一緒に行っています。メニューによっては、ホットプレートを活用したり、鍋をテーブルの上に置き、取り分けたりして一緒に楽しみながら食事をしています。昨年度より外食が出来なかったため、テイクアウトも取り入れながら食事がマンネリにならないように努めています。	三食手作り。利用者のリクエストがあれば行事に合わせて、ケーキを作ったり団子と一緒に手で丸めたりしている。テイクアウトもだんだんと慣れ、ハンバーガーやうどんを持ち帰って楽しんで頂いている。本日は、男性職員の手作り錦糸卵を重ねたちらし寿司が彩りを添え、絶品で好評。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分、食事の摂取量を記録して、水分が少ない方には細目に水分補給を促したり、ゼリーにして食べて頂いています。また、食事の摂取量が少ない方には、高カロリーの補助食品で補ったり、ご家族様に好きな食べ物を持って来てもらい随時提供しています。また、必要に応じて特養の管理栄養士へ相談し対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけだけでは口腔ケアが不十分な方が多いので一緒に洗面台へ行き、出来るだけ自力で歯磨きをしてもらっています。出来ない方は、介助しています。夜は義歯を預かり(預かれる方のみ)洗浄剤で毎晩洗浄しています。必要に応じて訪問歯科で定期的にケアしていただいている方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレには自分の行きたい時に行って貰い、間隔が空いている方には、声掛けをしています。中には、「行った」と思っている方もいるので、声掛けには注意をしています。また、出来るだけ、布パンツで過ごしていただけるように努めています。	排泄チェック表と介助する経験と照合わせて、状態の維持と改善に活かしている。すでにポータブルトイレの使用が習慣化されている方など現状と今後をしっかりと評価した上で使用している。このような取り組みから、長く機能維持することにも貢献できるように対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔を把握して、下剤で調節しています。便秘がちな方には、食物繊維の多い食品を取って頂いたり、食事面でも気を付けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の間隔を見て声掛けさせてもらっていますが、入りたくない場合は無理をせず翌日に繰り越したり、入る順番も気を付けています。お湯は一人ひとり入れ替えて各自の好きな湯加減にし、好みの入浴剤を入れて入浴してもらっています。	浴室は、電球色の暖かみのある照明で手招きしてくれ、大きなパネルヒーターが空調を保っていた。窓を開けると露天風呂の様に山の緑が垣間見え、四季の移ろいを感じる。湯を入れ替えるので好みの入浴剤やゆず湯や菖蒲湯も楽しめ、綺麗好きな職員が多く、清潔感が溢れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中臥床したり、個々のペースで休みを取って貰っています。また、寝具は施設から提供していますが、ご自分の物を使用したい方は持って来て頂いていま起床時間や就寝時間は個々に合わせていますが、不眠の方は医師に相談しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤管理指導で薬局に入ってもらい、薬の管理をしてもらっています。服薬の一覧を作って貰ったり、変更や疑問などあればその都度連絡し、連携を図っています。個々に合わせた形状で提供し、粉が飲みにくい方は、服薬ゼリー等を使用し、確実に内服できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族に相談し、趣味などできるように準備をし、日常で行えるようにしています。(絵画、塗り絵など) 食後の机やお盆拭きなど日課にされている方もいます。体調に合わせて無理のないように行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があった時は、その都度可能な範囲で対応しています。時には、遠出したいとの希望があれば、ユニット間で協力したり、勤務を調整して行っています。今年度は、敷地内での散歩が中心となりました。	散歩が日常的な外出となっており、マイペースで自由気ままな散歩となり、職員とおしゃべりをしながらの散歩は楽しみとなっている。また、疲れたときや、のんびりしたい時は、玄関先で日向ぼっこをしたり、気候の良い時は椅子とテーブルを出して、ランチ会やお茶会を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、現金を持たずに買い物は立替で行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を使用している方がいるので、充電や通話したい時にどこを押したらいいのかを手伝っています。持たれていない方も電話がしたい時にはGHの電話からかけてお話ができるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示や写真を展示、また、季節の花を飾ったりして、目で楽しんでもらっています。また、居室から緑が(春には桜が)たくさん見えるので、自然豊かで喜ばれています。	建物のコンセプトは、古民家となっており、民芸調の味のある調度品が出迎えてくれた。フロアに一步入ると「コロナに負けるな笑顔で頑張りましょう」と言ったような手作りタペストリーが壁に掲示されており、お部屋で排泄ケアをされる職員さんがおられて、利用者に優しい眼差しと言葉がけのケアで、温かみを感じた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士のテーブルの配置を行い関係づくりの支援を行っています。孤立しないよう共有し、関わられるようにしています。また、ユニットの行き来を自由にしてもらいユニットを超え交流しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前のアセスメントに行った職員の顔は記憶に残っている事が多いので、一番に話を聴いたり、他入居者や職員の間に入り関係が築けるようにしています。	居室の入り口には、職員手作りの額縁に、利用者の写真が飾ってある。利用者も自分が認識できるように新しい写真に入れ替えている。カーテンを開けると、花をたくさんつける木立ちがまるで絵画のように、癒やしてくれる。採光や空調も適度に管理され居心地がとても良い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	字が読め、理解が出来る方が多いので貼り紙をしたり、印をつけて自分で出来るようにしています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400194		
法人名	社会福祉法人 三慶会		
事業所名	グループホーム喜楽荘 (のどか)		
所在地	玉野市渋川1丁目13-5		
自己評価作成日	令和 3年 12月 24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390400194-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390400194-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 1 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に「特別養護老人ホームひび喜楽園」があり、連携を密に取っている為、グループホームでの生活が難しくなった時に、ご希望があれば移って頂くことが可能です。喜楽荘とひび喜楽園は同じ医師が往診に来られるので、施設を変っても主治医が変わることがありません。  
また、喜楽荘は、職員の離職率が低く、オープン当初の職員がたくさんいます。職員が落ち着いていることが、入居者の皆様の落ち着いた生活にもつながっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「楽しい事をたくさんしてあげたい」そんな気持ちと職員の頑張り施設の背中を押して、入居者の笑顔を導いている。あるスタッフは、「就業時間の経つのが早いんですよ」と語るくらい楽しい職場となっていて、スタッフの勤務にも及んでいる。リビングの壁には、「地域の子供たちから寄贈された応援タペストリーが掲示され、職員にエールを送りながら、「出口を探して行きましょう」と利用者の悩みをさらに親しみや絆を深めて家族と同様に気持ちを汲み取り、利用者の自立に向け、利用者の日々の生活やイベントをビデオレターとして送り、現状報告のシーンとして伝えている。人への配慮が人を形成している職場であった！

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	三慶会の理念を基に業務を行っています。	法人の理念と運営方針が、事務所に掲示されていて、毎月の会議で照らし合わせながら議題が進められている。新入職者には、キャリアに応じて数日から最長2ヶ月程度の研修期間が設けられ、各ユニット長がレクチャーをしているので、大きくぶれない方針が息づいている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は行えていませんが、地域で開催される夏祭りや敬老会などの行事に参加し、交流しています。今年度は新型コロナウイルスの影響で、地域の催し物が無かったり、接触機会を制限しており交流できていません。	利用者は日頃から玄関先に出向き、毎日のように出入りする業者の方と挨拶を交わっていて、敷地の沿道では、地域の方の散歩コースとなっているので、気軽に挨拶を交わす事が続けられている。事業所の新聞を毎月、愛育委員と町内会長へ郵送していて、再びリアルな関係性を育てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で高齢者・認知症について様々な専門職にお話をして頂き、理解を深めています。今年度は新型コロナウイルスの影響で行えていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度行い、施設の利用状況や行事予定、DVDを使用した活動報告をしています。また、研修報告など行い、ご家族のご意見や要望を聞いています。今年度の運営推進会議は昨年同様文書配布で対応しています。	2ヶ月に一度、書面と普段の様子や事業所の様子を収めた新聞資料をメンバーに郵送して、会の開催を続けている。メンバーは、本人・家族・愛育委員・町内会・包括支援センターで、議題によっては、地域の薬局や訪問歯科に参加して頂くこともある。	新たな関係から運営推進会議に参加していただいてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターへ毎月新聞を郵送しGHでの取り組みを伝えています。運営推進会議にも参加して頂くこともあります。また、定時に長寿介護課に入居や待機状況の報告を行っています。	窓口は、副ホーム長とユニットリーダーで、関係を築いている。主に電話で連絡を取り合うが、内容によっては、直接役所まで出向いている。何でも話せる関係となり、地域に貢献しやすい情報提供も豊富に頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていません。特養と合同の動画研修を行なっています。建物が立っている場所柄(玄関を出たらすぐ坂でその下は道路)、玄関の施錠を行っています。	身体拘束はしていない。年1回の身体拘束をテーマにした研修に付随して、毎月関連項目の動画を視聴している。最近では、「動かないでください」等の声掛けは、言葉での拘束と学び、言葉かけにも注意をしている。副ホーム長も職員と一緒に利用者と語らいを楽しみ、動画を鑑賞して不安にならないオペレーティングをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特養と合同の動画研修を行い、会議で虐待がないか確認をしています。又、不適切な発言など耳にした場合は注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特養と合同の動画研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時より契約前の方が質問が多く、説明を行い納得した状態で入居の手続きをさせて貰っています。その都度出てきた質問にも随時答えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からは、面会時や運営推進会議で、利用者様からは日々の生活の中から意見や要望をお聞きし、運営に反映しています。今年度は、電話での近況報告時やケアプラン作成時にご家族へ意見や要望をお聞きして反映できるように対応しました。	毎月日々の暮らしぶりを新聞にまとめたものを家族に送っている。家族の喜びの声が自然と事業所への情報提供としてフィードバックされ、郷土の雑煮作りやうどんを粉から作っている事も家族に写真で伝わっている。デリケートな利用者の意見に根気よく耳を傾け、意向の把握に役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中で、意見が出たり、日々のケアの中で提案が出たりした物を精査して、行事に関する意見は、計画を立て行えるようにし、その他の意見では必要に応じて上司へ報告して対応したりと、その都度対応しています。	職員も管理者側も公平に働き方改革が出来ている。ケアマネとユニットリーダーが勤務表作成して、自然とスタッフの個別相談を受けるようになり、ゲートキーパー役を果たしている。職員の男女比率が良いので職員の個性もより発揮しやすく、ムードメーカー役もその力量をより発揮してくれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与前に書面で評価をしていますが、マイナスな評価ではなく、プラスの評価をしています。 パートさんとは、勤務時間や日数等を確認しながら勤務を組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月特養と合同で動画研修を行っています。また、資格試験などある場合は、勤務に反映しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部より内部(特養・GH合同)研修の方が多いので、内部での交流は行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントに行った職員の顔は記憶に残っている事が多いので、一番に話を聴いたり、他入居者や職員の間に入り関係が築けるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・アセスメント・契約など同じ職員が対応し、家族が不安や困っている事、疑問など聞きやすいようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が困っている事、こうして欲しいという内容を基に実際の本人さんを見て必要な援助を考えいろいろ試しています。しかし、関わりすぎるのが嫌な方もいるので、その方に合わせた距離で対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が作業(掃除や調理)をしていると自然に手伝って下さいます。お互いが助け合い、側にいることが出来ていると思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけでも家族だけでも限界があるので、面会や電話、手紙などで近況報告や相談を行い、協力しながら援助しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事などに参加、交流して頂き懐かしんでもらえるようにしていましたが、コロナ禍のため出来ていません。	もともと構築されている身近な馴染みをさらに深めようと、家族と電話や年賀状のやり取りをオンライン体制で幅を広げている。特にユニット間の交流で、ふらりと立ち寄れば、お茶の時間でなくても「まあちょっとお茶でもして行かれませんか」と隣近所のような馴染みのお付き合いが出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士のテーブルの配置を行い関係づくりの支援を行っています。孤立しないよう共有し、関われるようにしています。また、ユニットの行き来を自由にしてもらいユニットを超え交流しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	敷地内に特養があり、その特養に移られた方には、時々会いに行き、近況を聴いたり、話をしています。 入院し退所した方には、電話等でご家族とお話しし、相談などお聞きする事がありました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活で難しい事もありますが、本人の希望に出来るだけ添えるように努めています。困難な場合は、ご家族と相談しながら行っています。	意思疎通が出来る方には、横並びに座ってお話を聞いたり、時には一緒に散歩をしながら穏やかな時間を提供している。どなたにも絶えず言葉をかけていると、ときに「はい」という返事やモゴモゴと反応してくれるのがありがたく、もっとしてあげようという気持ちになって実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント時に生活歴を聴かせて頂いています。また、お話をしていくうちにより詳しく分かる時があります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後は、アセスメントで知り得た情報があるかの確認やご本人の生活リズムを知る為にあえて手をあまり出さず様子を観察し、GHで必要なケアを考える時間を設けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直しの前に本人・家族に話しを聞いて今の気持ちなどプランに入れるようにしています。 また、1か月ごとに各ユニット職員でモニタリングを行っています。	入居時に作ったプランは毎月行われるモニタリングで見直している。常勤の看護師が、配置されていて、加えて隣接の特養に栄養士が配置されているので、かかりつけ医と同行の看護師本人家族を含めて、細やかに情報収集しながら、本人家族の意向をプランに反映している。	オンライン研修などに参加して、ケアプランの書き方をブラッシュアップすることで、今以上に本人家族の思いを形に表すように活かされてはいかががでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察記録用紙にケアプランの内容を印字して、常に意識してケアしてもらえるようにしています。また、ノートを作成し、ケアの統一が図れるようにしたり、ユニット会議で問題点を話し合えるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の代わりに病院受診を行ったり、必要な日用品や嗜好品等、個々のニーズに合わせて行えることは柔軟に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インターネットや市の広報誌、ご家族の話などで情報を得て催し物など確認し、その地域に住んでいた方を中心に声掛け参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に往診に来てもらい、GHで診察してもらっています。入居時医療機関との連携をより密にする為、主治医の変更をしてもらっていますが、変更を望まない方は今までの医療機関への受診で対応しています。	入居時にかかりつけ医を選んで頂くが、殆どの方がホームの提携医に転院される。原則として、職員が市内の通院を介助し、家族と臨機応変に対応している。提携医からの往診は、ユニットごとに2週間に一度、訪問歯科は適宜に来所され、どの医療従事者とも気やすく相談できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が1名常勤で勤務をしています。GHの看護師が休みの日は、隣接の特別養護老人ホームひび喜楽園の看護師が対応し連携を取りながら入居者の体調管理に努めています。往診時も看護師が立ち会い、入居者の状態について医師へ報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	様子を細目に見に行き、医師・ソーシャルワーカーから話を聞いたり、家族と連携を取り合う事で状況把握や退院に向けて話をしています。今年度は様子を見に行くことができないので、電話での様子確認となりました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	コロナでの面会が行いにくい状況なので、外から窓越しでも見やすいお部屋へ移動していただき、少しでも会えるように対応しています。	研修のリーダー役はホームの看護師で、面談中コーヒーを持って来られた現場の職員に尋ねたところ、マニュアルを大事にし、「後悔がないようにその方に居心地よく過ごしてほしい」と介護している考えを聞くことができた。そんなやり取りから、副ホーム長は 職員のとっさの答えに感動して目を潤ませてた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、マニュアルを見て対応しています。また、特養の看護師に応援を依頼したり、24時間誰かに連絡できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回特養と合同で避難訓練を行っています。	年に2回、火災と水害と土砂の災害訓練を特養と合同で利用者を交えて昼夜想定で行っている。常勤の看護師が、グループホームと特養に配属されていて、緊急時には夜間にもすぐに駆けつけている。緊急連絡網は LINE で行い、備蓄は水と食料と衛生材料が3日分程度用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話す内容によって、声の強弱や話す場所に配慮しています。また、これから行うことの説明を行い、同意を得てから対応しています。	入室する際はノックをしてを呼びかけし、肌が露になる場面では、ドアは閉めたり、間仕切りをして対応している。また何か失敗をされたら、平常心で「こちらへ来てもらっても良いですか」「このようにしても良いかしら」と穏やかな心持ちで関わるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の気持ちを言えない方や言いにくい方は、個別に話しをする時に気持ちを聴いたり、ご家族に好きだったことなど聞いて、希望に近づけるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「出かけたかった」等訴えあれば出来るだけ対応していましたが、昨年度から外出を控えており、「出かけたかった」と言われた時は敷地内での外気浴を行いました。行事等あれば声掛けて出来るだけ参加して頂けるようにしていますが、ご本人が行きたくない時には、無理せず休んで頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には選べる方は、ご本人に衣類を選んでもらっています。また、お化粧の習慣がある方はして頂いています。月に1度美容院の方が来られるので、その前に希望を聞いてカット・パーマ・カラー等行っています。昨年度より県内の感染状況を見ながら、美容師さんの訪問を決め、不定期で訪問してもらいました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを聞いて普段のメニューに取り入れられたり、準備や片付けも一緒に行っています。メニューによっては、ホットプレートを活用したり、鍋をテーブルの上に置き、取り分けたりして一緒に楽しみながら食事をしています。昨年度より外食が出来なかったため、テイクアウトも取り入れながら食事がマンネリにならないように努めています。	三食手作り。利用者のリクエストがあれば行事に合わせて、ケーキを作ったり団子と一緒に手で丸めたりしている。テイクアウトもだんだんと慣れ、ハンバーガーやうどんを持ち帰って楽しんで頂いている。本日は、男性職員の手作り錦糸卵を重ねたちらし寿司が彩りを添え、絶品で好評。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分、食事の摂取量を記録して、水分が少ない方には細目に水分補給を促したり、ゼリーにして食べて頂いています。また、食事の摂取量が少ない方には、高カロリーの補助食品で補ったり、ご家族様に好きな食べ物を持って来てもらい随時提供しています。また、必要に応じて特養の管理栄養士へ相談し対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけだけでは口腔ケアが不十分な方が多いので一緒に洗面台へ行き、出来るだけ自力で歯磨きをしてもらっています。出来ない方は、介助しています。夜は義歯を預かり(預かれる方のみ)洗浄剤で毎晩洗浄しています。必要に応じて訪問歯科で定期的にケアしていただいている方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレには自分の行きたい時に行って貰い、間隔が空いている方には、声掛けをしています。中には、「行った」と思っている方もいるので、声掛けには注意をしています。また、出来るだけ、布パンツで過ごしていただけるように努めています。	排泄チェック表と介助する経験と照合わせて、状態の維持と改善に活かしている。すでにポータブルトイレの使用が習慣化されている方など現状と今後をしっかりと評価した上で使用している。このような取り組みから、長く機能維持すること貢獻できるように対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔を把握して、下剤で調節しています。便秘がちな方には、食物繊維の多い食品を取って頂いたり、食事面でも気を付けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の間隔を見て声掛けさせてもらっていますが、入りたくない場合は無理をせず翌日に繰り越したり、入る順番も気を付けています。お湯は一人ひとり入れ替えて各自の好きな湯加減にし、好みの入浴剤を入れて入浴してもらっています。	浴室は、電球色の暖かみのある照明で手招きしてくれ、大きなパネルヒーターが空調を保っていた。窓を開けると露天風呂の様に山の緑が垣間見え、四季の移ろいを感じる。湯を入れ替えるので好みの入浴剤やゆず湯や菖蒲湯も楽しめ、綺麗好きな職員が多く、清潔感が溢れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中臥床したり、個々のペースで休みを取って貰っています。また、寝具は施設から提供していますが、ご自分の物を使用したい方は持って来て頂いていま起床時間や就寝時間は個々に合わせていますが、不眠の方は医師に相談しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤管理指導で薬局に入ってもらい、薬の管理をしてもらっています。服薬の一覧を作って貰ったり、変更や疑問などあればその都度連絡し、連携を図っています。個々に合わせた形状で提供し、粉が飲みにくい方は、服薬ゼリー等を使用し、確実に内服できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族に相談し、趣味などできるように準備をし、日常で行えるようにしています。(絵画、塗り絵など) 食後の机やお盆拭きなど日課にされている方もいます。体調に合わせて無理のないように行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があった時は、その都度可能な範囲で対応しています。時には、遠出したいとの希望があれば、ユニット間で協力したり、勤務を調整して行っています。今年度は、敷地内での散歩が中心となりました。	散歩が日常的な外出となっており、マイペースで自由気ままの散歩となり、職員とおしゃべりをしながらの散歩は楽しみとなっている。また、疲れたときや、のんびりしたい時は、玄関先で日向ぼっこをしたり、気候の良い時は椅子とテーブルを出して、ランチ会やお茶会を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、現金を持たずに買い物は立替で行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を使用している方がいるので、充電や通話したい時にどこを押したらいいのかを手伝っています。持たれていない方も電話がしたい時にはGHの電話からかけてお話ができるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示や写真を展示、また、季節の花を飾ったりして、目で楽しんでもらっています。また、居室から緑が(春には桜が)たくさん見えるので、自然豊かで喜ばれています。	建物のコンセプトは、古民家となっており、民芸調の味のある調度品が出迎えてくれた。フロアに一步入ると「コロナに負けるな笑顔で頑張りましょう」と言ったような手作りタペストリーが壁に掲示されており、お部屋で排泄ケアをされる職員さんがおられて、利用者に優しい眼差しと言葉がけのケアで、温かみを感じた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士のテーブルの配置を行い関係づくりの支援を行っています。孤立しないよう共有し、関わられるようにしています。また、ユニットの行き来を自由にしてもらいユニットを超え交流しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前のアセスメントに行った職員の顔は記憶に残っている事が多いので、一番に話を聴いたり、他入居者や職員の間に入り関係が築けるようにしています。	居室の入り口には、職員手作りの額縁に、利用者の写真が飾ってある。利用者も自分が認識できるように新しい写真に入れ替えている。カーテンを開けると、花をたくさんつける木立ちがまるで絵画のように、癒やしてくれる。採光や空調も適度に管理され居心地がとても良い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	字が読め、理解が出来る方が多いので貼り紙をしたり、印をつけて自分で出来るようにしています。		